

下川 大介（しもかわ・だいすけ）先生

エイベックス・エンタテインメント株式会社  
第1音楽事業本部第3制作ルーム制作部長

1994年エイベックス・ディー・ディー株式会社入社。  
入社後、TRF、globe、浜崎あゆみ他、  
主に邦楽宣伝・制作業務を担当する。  
2005年以降は会員制事業「mu-mo」プラットフォームの  
立上げ、CD新規発売ルート商品企画開発部門を歴任し、  
2008年エイベックス海外拠点を統括する  
「エイベックス・アジア・ホールディングス・リミテッド」  
取締役役に就任。浜崎あゆみ初のアジア公演等に携わる。  
エイベックス・エンタテインメント株式会社  
第1音楽事業本部第3制作ルーム制作部長現任。



### 《講義概要》

エイベックス・エンタテインメント株式会社第1音楽事業本部第3制作ルーム制作部長として海外戦略に携わる下川大介氏が、アジアの音楽産業の現状について講義を行った。

講義ではまず、アジアの中でも日本・中国・韓国・台湾・タイ・シンガポール・マレーシアの7カ国の音楽市場の規模と各国の特徴について、詳細なデータを提示し、アーティストの楽曲や映像を流しながら分かりやすく説明。また、エイベックス・グループの海外戦略についても、海外事業の歩みや実績を具体的に解説した。

さらに、アジアの音楽産業の特徴について提示し、日本に比べて市場の小さいアジア諸国とビジネスを行うにあたり、ライブエンタテインメントが重要なポイントとなることを示した。その中で、著作権問題についても指摘し、違法コピーがCDや配信のみでなく、ライブグッズなど広範囲に及んでいることを説明した。学生に、アジアの他国へも視野を広げて著作権問題について考えるきっかけを与えた。

最後には今後の展望を示し、日本の音楽産業の発展において、アジア進出の拡充と国内におけるアジア戦略が重要であることを伝えた。

## 《受講生の感想》

●日本以外のアジアのCD・配信市場は日本に比べて小さなマーケットであり、ライブやCMキャスティングなどの収益でいかに展開していくかが鍵になることが分かりました。中華圏において台湾アーティストが大きな勢力を持っており、エイベックスとしても台湾のアーティストと契約してマネジメントしているという点に、グローバルな市場における柔軟な姿勢、現地の傾向に合わせるという視点の重要性を強く感じました。

立命館大学・産業社会学部・3回生

●流行や現状を把握することがエンタテインメント産業では重要であると思いました。音楽業界は何が流行するかは未知数ですが、グローバルな視点で常にアンテナを張っておくこと、そして勇気を持って新たな市場に参入していくことが重要であることをこの講義を通して思いました。

立命館大学・産業社会学部・3回生

●日本のアーティストを海外でプロモーションしていく際に、日本国内と同じように展開していくことは難しく、その国々の特性や国民性、文化や歴史などをよく理解し、その国に合ったマーケティング、宣伝などを展開していく必要があることが分かりました。

立命館大学・映像学部・3回生

●私はゼミで日本の音楽の海外進出をテーマに研究を進めているので、今回、アジア各国の音楽市場の動向を知ることができて、色々とヒントをいただきました。アジアの中でもパッケージが売れている国とデジタルが売れている国があり、日本の音楽産業はその国の音楽消費に合わせた戦略が必要だと分かりました。

立命館大学・産業社会学部・3回生

●デジタル・ネット社会において、音楽は国境を越え、さまざまなビジネスが発展していく一方で、著作権の問題など多くのデメリットも発生することが考えられるので、そのような事象にも柔軟に対応して事業を展開することが音楽業界に求められていると思いました。

立命館大学・産業社会学部・3回生

●違法コピー問題はCDなどの音源だけではないということに興味を持ちました。今まで違法ダウンロードや海賊版などの点からしかコピーの問題を見ていませんでしたが、「グッズ」の点からも考えていかなければならないと思いました。音楽の海外展開の際は様々な問題が生じてくると思うので、それらに対処する法整備などが必要だと思いました。

立命館大学・産業社会学部・2回生

